

## 21世紀 COE 総合シンポジウム

### グローバル化と多文化的想像力 総括と提言

亀山 郁夫（東京外国語大学外国語学部教授）

#### 趣旨説明

#### 総合シンポジウム・テーゼ

「グローバル化と多文化的想像力」——、この二項対立的な構図は、現代における私たちの《知》のあり方そのものを示すものです。資本、情報、交通における空前の流動化を迎えた現代、私たちの生活様式は産業革命時代に比すべき根源的な変容を強いられています。そのなかで、ある人々は、莫大な資本の恵みに与かり、逆にある人々は、世界から見捨てられるようにして、貧困や病いにあえぎつづける現実があります。地球一元化とは、富や情報の平準化どころか、まさにそれとは正反対の現象であることが明らかになりました。また、高度に情報化された私たちの社会では、言論の自由と言論の統制ないしは監視が同義となるような事態も生まれようとしています。そして、この恐ろしい力と手に手を携えてやってくる死神たち、戦争、テロル、病、環境破壊……。私たちの世界には、もはや個人の責任、個人の主体性において動かさうの何ものも存在しないかのようにあり、それこそが、グローバル化の負の側面をもっとも端的に象徴するものだといつてよいのです。こうしてすべてが混沌の渦に巻き込まれ、その混沌を高めからみおろす、ある圧倒的な力をもった運命が主役となった時代、それが21世紀現代の特質なのではないでしょうか。

では、そうした状況のなかで、私たちはいかに自らの知的アイデンティティを取り戻すことができるのでしょうか。世界の言葉を知りたい、文化を知りたい、歴史を見つめたい、という、私たちの欲求にはどのような根拠が求められるのでしょうか。

これから3日間にわたる総合シンポジウムの対立軸にある「多文化的想像力」とは、地球上に生きるさまざまな人間のありよう、あるいはその多声的な生命の営みに対するまなざしの総体を意味しています。多文化的な想像力は、グローバル化という一元的な暴力に対する、一つの、根源的といつてよい抵抗の形式であり、それゆえ、現に地球上で現出しつつある状況、あるいは誕生しつつある新しい文化に対する批評的な営みのメタファーともなりうるものです。では、そのまなざしと批評性を、私たちはどのようにして自分たちのなかに育み、同時代を生きる世界の人々や、次代の人々に伝えていくことができるのでしょうか。あるいはその想像力を、どのようにして、この混沌とした現実社会を生き抜いていくために有効な力へ変えることができるのか。私たちは、本シンポジウムをとおして、それらの問いに対する答えを、まさに大学という現場から探り出したいと考えるのです。しかし、ここで注意しなくてはならないことがあります。多文化的な状況へのいかなるまなざしも、それぞれがそれぞれの価値観の内に閉じこもろうとする限り、何一つ実りある成果は生みだせないということです。不断に変化し、流動化する地球社会との接点を見失い、それとの対話のチャンネルを自ら閉ざすことによって生まれる事態もまた悲劇的です。私たちは、グローバル化を一方的

に罪悪視することなく、多文化的な価値観のなかにそれをクリエイティブな力へと転化する勇気と、想像力の回路を切り開かなくてはなりません。しかし、問題はそれだけではありません。私たちがこれからとくに注意したいと願うことの一つは、多文化への想像力=まなざしと越境という行為を通して見えてくるより「普遍的なもの」の意味です。かりにその「普遍的なもの」(universality)に「教養」という名前を与えると、**「大学」(university)**という一個の閉じられた場は、あるいは**東京外国語大学**という場は、これまでとは異なった知的な眺望を切り開いてくれることでしょう。

2005年 東京外国語大学 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
研究棟 1階 マルチメディア・ホール(101)、語学研究所(419)、総合文化研究所(422)、海外事情研究所(427)、227教室

1月27日(木)/28日(金)/2月10日(木)

2005年1月27日(木) 会場: マルチメディア・ホール(101)

インテグラルな地域文化研究拠点の創生に向けて 個別シンポジウム

- 13:00 開会の挨拶 高橋 正明 (副学長)
- 13:10 セッションA 「言語理論と言語教育の統合は可能か」……………[司会] 川口 裕司  
●高島 英幸 ●富盛 伸夫 ●峰岸 真琴
- 14:50 セッションB 「グローバル化の現実と地域文化の変成を記録する」……………[司会] 今井 昭夫  
●新井 政美 ●斎藤 照子 ●沢田 ゆかり ●西谷 修 ●野本 京子 ●宮崎 恒二
- 16:30 セッションC 「グローバル化時代の〈翻訳〉」……………[司会] 和田 忠彦  
●巽 孝之 (慶應義塾大学) ●西 成彦 (立命館大学) ●松浦 寿夫

2005年1月28日(金) 会場: 語学研究所(419)、総合文化研究所(422)、海外事情研究所(427)、(227)

グローバル化の現実と文化の基層をみつめる人文社会研究 研究報告会

- 13:10 [研究報告会] (~16:20)  
語学研究所(419)……………[司会] 高垣 敏博  
●石井 康敏 ●時田 伊津子 ●安 塚 姫 ●須藤 秀樹 ●木山 幸子 ●和田 朋子  
総合文化研究所(422)……………[司会] 西永 良成  
●泉 亮也 ●小松原 由理 ●福岡 由仁郎 ●内田 兆史 ●野平 宗弘 ●村田 はるせ  
海外事情研究所(427)……………[司会] 金井 光太郎  
●中村 隆之 ●高橋 明史 ●梁 益模 ●呼 斯 勒 ●チュ・スワン・ゾオ ●金 成龍
- 16:30 [総合討論] (227) 「グローバル化の現実と文化の基層をみつめる人文社会研究」  
【挨拶と趣旨説明】 ●立石 博高 (大学院地域文化研究科長)  
参加者: 前後期各コース長、司会者、研究発表者、大学院生、教員有志

2005年2月10日(木) 会場: マルチメディア・ホール(101)

グローバル化時代の大学と多文化的想像力 総合シンポジウム

- 13:10 [シンポジウム] (~16:00)  
「越境的想像力と知の対話の再生に向けて」……………[司会] 亀山 郁夫、中山 智香子  
【基調報告】 ●水林 章  
【シンポジウム】  
●荒 このみ ●石田 英敬 (東京大学) ●今福 龍太 (札幌大学)  
●亀山 郁夫 ●高瀬 浩造 (東京医科歯科大学)  
【全体討論と総括】  
●川口 裕司 (言語運用を基盤とする言語情報学拠点・拠点リーダー)  
●藤井 毅 (史資料ハブ地域文化研究拠点・拠点リーダー)
- 16:30 歓迎の辞 池端 雪浦 (学長)
- 16:40 [記念講演]  
●米原 万里 (作家、エッセイスト)  
●村上 陽一郎 (国際基督教大学)
- 18:15 閉会の辞 在問 進 (副学長)
- 18:30 懇親会 大会館

主催

- 東京外国語大学21世紀COEプログラム  
「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 東京外国語大学21世紀COEプログラム  
「史資料ハブ地域文化研究拠点」

(お問い合わせ先)  
東京外国語大学 COE総合シンポジウム  
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1  
E-mail coe-conf-sec@tufs.ac.jp



越境的想像力と新しい文化化学の起点をめざして  
東京外国語大学21世紀COEプログラムが世界に向けて発信する2つのヴィジョンとは?

Globalization and Multicultural Imagination

# グローバル化と多文化的想像力

東京外国語大学21世紀COEプログラム総合シンポジウム

2005年1月27日(木)

会場: マルチメディア・ホール(101)

「インテグラルな地域文化研究拠点の創生に向けて」  
個別シンポジウム

- ・開会の挨拶 高橋正明 (副学長)
- ・セッションA「言語理論と言語教育の統合は可能か」  
高島英幸、富盛伸夫、峰岸真琴 川口裕司 (司会)
- ・セッションB「グローバル化の現実と地域文化の変成を記録する」  
新井政美、斎藤照子、沢田ゆかり、西谷修、野本京子、宮崎恒二、今井昭夫 (司会)
- ・セッションC「グローバル化時代の<翻訳>」  
巽孝之 (慶応大学)、松浦寿夫、西成彦 (立命館大学)、和田忠彦 (司会)

1月28日(金)

会場: 語学研究所 (419)・総合文化研究所 (422)・海外事情研究所 (427)・(227)

「グローバル化の現実と文化の基層をみつめる人文社会研究」  
研究報告会

研究報告会

- ・語学研究所 (419) 高垣敏博 (司会)  
石井康毅 時田伊津子 安塚姫 須藤秀樹 木山幸子 和田朋子
  - ・総合文化研究所 (422) 西永良成 (司会)  
泉克也 小松原由理 福岡由仁郎 内田兆史 野平宗弘 村田はるせ
  - ・海外事情研究所 (427) 金井光太郎 (司会)  
中村隆之 高橋明史 梁益模 呼斯勒 チュ・スワン・ザオ 金成蘭
- 総合討論「グローバル化の現実と文化の基層をみつめる人文社会研究」 (227)  
<挨拶と趣旨説明> 立石博高 (大学院地域文化研究科長)  
大学院前後期各コース長 司会者 報告者 大学院生 教員有志

2005年2月10日(木)

会場: マルチメディア・ホール(101)

「グローバル化時代の大学と多文化的想像力」  
総合シンポジウム

- シンポジウム「越境的想像力と知の対話の再生に向けて」 西谷修、中山智香子 (司会)
- ・基調報告 水林章「新たな反神学のために」
  - ・シンポジウム  
荒このみ「グローバリゼーションと米文学研究」／石田英敬 (東京大学)「情報学環のヴィジョンと情報メディア学について」／今福龍太 (札幌大学)「奄美自由大学のこと+a」／亀山郁夫「ドストエフスキーと人文的教養」高瀬浩造 (東京医科歯科大学)「MMAの現状と教員・学生の多様性」
  - ・全体討論と総括  
川口裕司 (言語運用を基盤とする言語情報学拠点・拠点リーダー)  
藤井 毅 (史資料・ハブ地域文化研究拠点・拠点リーダー)
  - ・歓迎の辞 池端雪浦 (学長)
  - ・記念講演  
米原 万里 (作家、エッセイスト)「国際化とグローバリゼーション」  
村上陽一郎 (国際基督教大学)「翻訳の可能性と不可能性」
  - ・閉会の辞 在間進 (副学長)